

# 公共図書館における電子書籍サービスについて (令和4年11月)

1. 導入区の一覧と利用実績
2. 導入区の蔵書構成
3. 電子書籍の特性
4. 電子書籍の利用対象

# 1. 導入区の一覧と利用実績

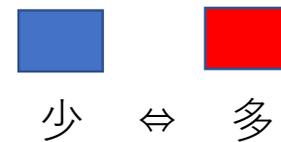
# 1. 導入区の一覧と利用実績 (令和3年度実績)

	区名	電子蔵書数	総貸出回数	回転率
1	千代田区	9,258	22,150	239.3%
2	港区	6,864	11,668	170.0%
3	文京区	3,664	28,793	785.8%
4	品川区	3,113	5,025	161.4%
5	目黒区	9,775	11,193	114.5%
6	大田区	10,664	11,323	106.2%
7	世田谷区	13,144	16,718	127.2%
8	渋谷区	データなし		
9	豊島区			
10	足立区	3,022	13,680	452.7%
11	葛飾区	11,066	16,114	145.6%
12	江戸川区	R4年度からの導入のため、データなし		
13	中央区			
14	板橋区			

## 2. 導入区の蔵書構成

## 2. 導入区の蔵書構成-1 (令和4年11月現在)

	全部	※区毎のヒートマップ											単位：冊数	
		全体	0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	児童	
1	千代田区	9,925	142	198	333	735	281	166	129	531	153	6,604	653	
2	中央区	9,783	170	206	367	901	214	158	103	746	121	6,493	304	
3	港区	6,752	33	201	371	511	199	419	167	258	390	2,776	1,427	
4	文京区	3,568	75	122	364	252	279	350	70	126	200	510	1,220	
5	品川区	1,667	16	27	81	50	57	99	20	84	48	512	673	
6	目黒区	10,229	178	205	412	913	270	226	145	787	147	6,537	409	
7	大田区	11,964	227	288	433	1,058	426	393	145	880	159	7,096	859	
8	世田谷区	11,726	203	267	494	1,065	378	497	160	884	231	6,692	855	
9	渋谷区	8,697	92	176	337	500	198	76	47	457	68	6,044	702	
10	豊島区	7,685	99	119	215	426	132	118	67	414	63	5,725	307	
11	板橋区	9,591	188	200	376	929	193	138	110	750	138	6,392	177	
12	足立区	4,327	独自分類で集計不可											
13	葛飾区	11,825	231	232	436	1,082	313	292	139	815	262	7,314	709	
14	江戸川区	31,974	独自分類で集計不可											



## 2. 導入区の蔵書構成-2

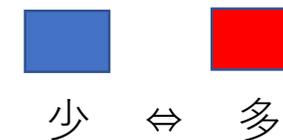
(令和4年11月現在)

青空文庫													単位：冊数	
		全体	0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	児童	
1	千代田区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
2	中央区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
3	港区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	文京区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	品川区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	目黒区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
7	大田区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
8	世田谷区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
9	渋谷区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
10	豊島区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
11	板橋区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
12	足立区	448	独自分類で集計不可											
13	葛飾区	6,840	73	93	181	357	66	18	24	379	27	5,622	0	
14	江戸川区	11,196	独自分類で集計不可											

## 2. 導入区の蔵書構成-3

(令和4年11月現在)

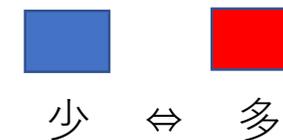
	有償等	※区毎のヒートマップ											単位：冊数	
		全体	0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	児童	
1	千代田区	3,085	69	105	152	378	215	148	105	152	126	982	653	
2	中央区	2,943	97	113	186	544	148	140	79	367	94	871	304	
3	港区	6,752	33	201	371	511	199	419	167	258	390	2,776	1,427	
4	文京区	3,568	75	122	364	252	279	350	70	126	200	510	1,220	
5	品川区	1,667	16	27	81	50	57	99	20	84	48	512	673	
6	目黒区	3,389	105	112	231	556	204	208	121	408	120	915	409	
7	大田区	5,124	154	195	252	701	360	375	121	501	132	1,474	859	
8	世田谷区	4,886	130	174	313	708	312	479	136	505	204	1,070	855	
9	渋谷区	1,857	19	83	156	143	132	58	23	78	41	422	702	
10	豊島区	845	26	26	34	69	66	100	43	35	36	103	307	
11	板橋区	2,751	115	107	195	572	127	120	86	371	111	770	177	
12	足立区	3,879	独自分類で集計不可											
13	葛飾区	4,985	158	139	255	725	247	274	115	436	235	1,692	709	
14	江戸川区	20,778	独自分類で集計不可											



## 2. 導入区の蔵書構成-4

(令和4年11月現在)

有償割合		※全区のヒートマップ											単位：冊数	
		全体	0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	児童	
1	千代田区	100%	2.2%	3.4%	4.9%	12.3%	7.0%	4.8%	3.4%	4.9%	4.1%	31.8%	21.2%	
2	中央区	100%	3.3%	3.8%	6.3%	18.5%	5.0%	4.8%	2.7%	12.5%	3.2%	29.6%	10.3%	
3	港区	100%	0.5%	3.0%	5.5%	7.6%	2.9%	6.2%	2.5%	3.8%	5.8%	41.1%	21.1%	
4	文京区	100%	2.1%	3.4%	10.2%	7.1%	7.8%	9.8%	2.0%	3.5%	5.6%	14.3%	34.2%	
5	品川区	100%	1.0%	1.6%	4.9%	3.0%	3.4%	5.9%	1.2%	5.0%	2.9%	30.7%	40.4%	
6	目黒区	100%	3.1%	3.3%	6.8%	16.4%	6.0%	6.1%	3.6%	12.0%	3.5%	27.0%	12.1%	
7	大田区	100%	3.0%	3.8%	4.9%	13.7%	7.0%	7.3%	2.4%	9.8%	2.6%	28.8%	16.8%	
8	世田谷区	100%	2.7%	3.6%	6.4%	14.5%	6.4%	9.8%	2.8%	10.3%	4.2%	21.9%	17.5%	
9	渋谷区	100%	1.0%	4.5%	8.4%	7.7%	7.1%	3.1%	1.2%	4.2%	2.2%	22.7%	37.8%	
10	豊島区	100%	3.1%	3.1%	4.0%	8.2%	7.8%	11.8%	5.1%	4.1%	4.3%	12.2%	36.3%	
11	板橋区	100%	4.2%	3.9%	7.1%	20.8%	4.6%	4.4%	3.1%	13.5%	4.0%	28.0%	6.4%	
12	足立区		独自分類で集計不可											
13	葛飾区	100%	3.2%	2.8%	5.1%	14.5%	5.0%	5.5%	2.3%	8.7%	4.7%	33.9%	14.2%	
14	江戸川区		独自分類で集計不可											



## 2. 導入区の蔵書構成-5

### 1. 分析

- (1) 導入区の蔵書構成として、「**児童**」「**9類（文学）**」でほぼ過半数を占めている。
- (2) 次に多いのが「**3類（社会科学）**」や「**7類（芸術）**」となっている。
- (3) 「**児童**」が多いのは子育て世帯、学校向けを重視しているためと思われる。
- (4) 「**9類（文学）**」が多いのは、一般向けの需要に対応しているためと思われる。
- (5) 「**3類（社会科学）**」は**ビジネス**向け、「**7類（芸術）**」は**一般**向けと思われる。

### 3. 電子書籍の特性

# 3. 電子書籍の特性

## 1. 電子書籍の特性

- ・電子データであり物理媒体でない

## 2. 電子書籍の長所

- ・自治体DX（住民サービスの向上、デジタル技術活用による人的資源の有効活用）に叶う
- ・非来館サービス
  - 障がい者サービスの利用にまでは至らないが、来館が困難な利用者への情報提供が可能
  - 仕事、子育て等で多忙な利用者への情報提供が可能
  - 感染症流行時などに継続して情報サービスの提供が可能
    - 特にGIGAスクール事業によるタブレットが配布されている小中学生については、その波及効果が高い。感染症による欠席、不登校等であっても利用可能な点は文科省も有用性を指摘している。
- ・読み上げや文字サイズ変更の機能があるため、視力の低い方も利用しやすくなる。
- ・読み上げ機能により、別作業をしながらの利用も可能。
- ・物理媒体でないため、書き込み・汚破損、紛失、書架スペースの圧迫等のリスクがない
  - 紙媒体では購入していなかった参考書、学習書、コミック等の資料と相性が良い。

## 3. 電子書籍の短所

- ・紙媒体資料と比較すると質、量ともに課題があり、現在の図書館サービスを代替することはできない。

## 4. 電子書籍の導入効果

- ・デジタル技術を有効活用した住民サービスの向上が見込める。

## 4. 電子書籍の利用対象

# 4. 電子書籍の利用対象

## 1. 利用対象の考え方

上記のとおり、電子書籍には長所と短所がある。短所を低減しつつ、長所を生かせるような利用対象を想定する。

## 2. 想定する利用対象

- (1) 小中学生…タブレット全数所持による波及効果、休校、不登校時の情報アクセスを保障
- (2) 来館困難、読書困難な方…障がい者に限らず、高齢者など幅広い利用者への情報アクセスを提供
- (3) 子育て世代…子育て等で多忙、外出先での利用、来館難しい場合の情報アクセスを提供
- (4) 現役勤労者…多忙で来館しにくい方への利用促進（全世代で一番利用が低いのが20～30代男性）

## 3. 想定する利用対象と応答性のある資料

- (1) 小中学生…学習用資料、課題図書
- (2) 来館困難、読書困難な方…読み上げ・文字サイズ変更機能のある資料
- (3) 子育て世代…絵本、育児書、家庭生活関連、一般図書全般
- (4) 現役勤労者…自己啓発系資料、ビジネス書、一般図書全般

# 4. 電子書籍の利用対象

